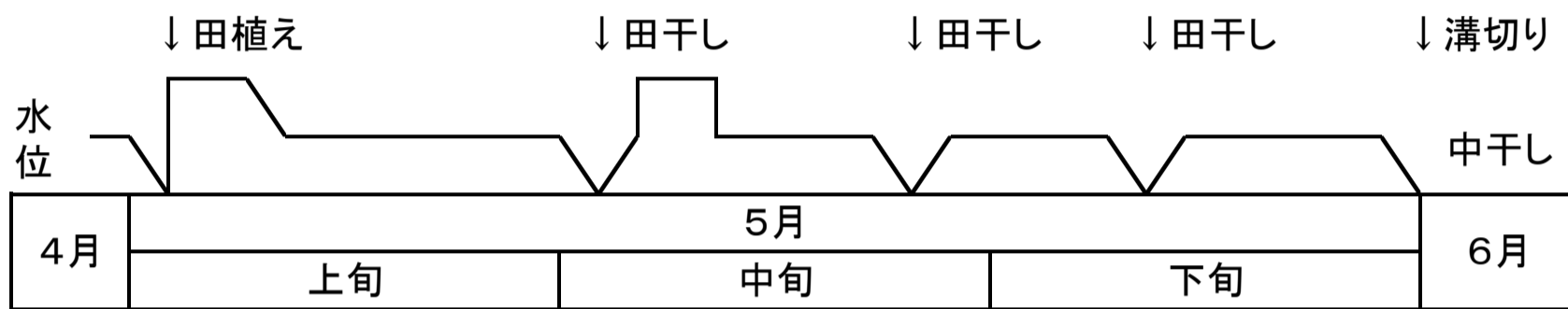


適切な初期管理は良質米への第一歩！！

【田植え後の水管理】

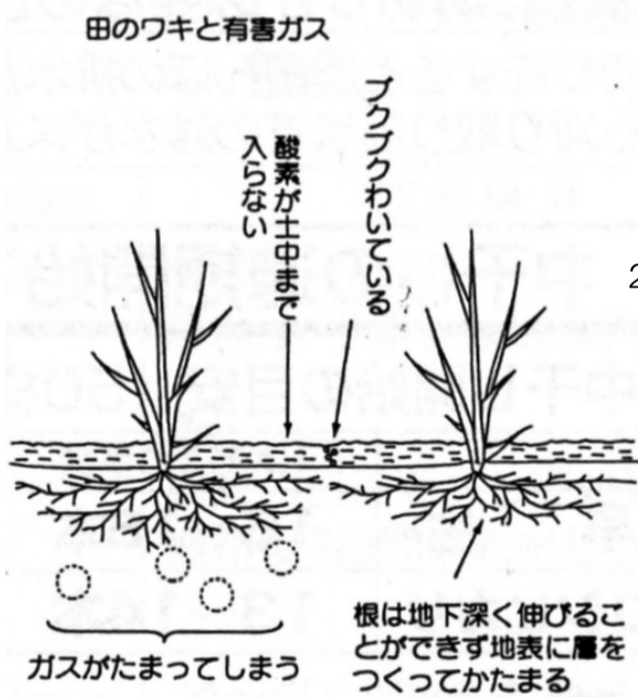
田植え後の水管理は、稲のその後の生育に大きく影響します。
適切な管理により、初期生育の確保・健全な稲体の育成に努めましょう！

- 田植え後3～5日 深水管理(5～10cm程度)
- 除草剤散布時は十分に水を入れる
- 日中は浅水管理(2～3cm)で、地温の上昇を図る

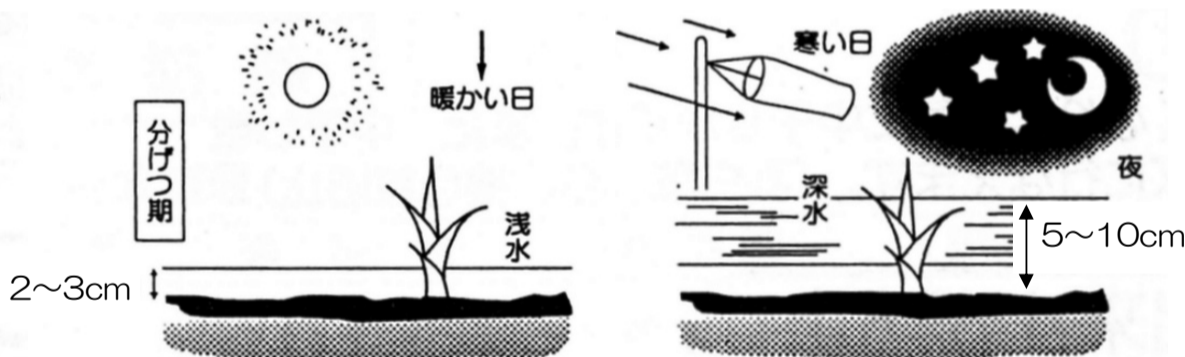


- ① 田植え後、低温・強風時は、苗が水没しない程度の深水とし、苗を保護する。
- ② 活着後は日中2～3cmの浅水管理を行い、朝に短時間の入水を励行し、田の水温・地温が上がるように努める。
- ③ 中干しまでに田干しを2～3回行い、ガス抜きをし、根の張りを良くする。
※ 田植え後、低温が続く場合でも、出来るだけ暖かい日を選び、水の入れ替えを行う。
- ④ 6月初めには、「中干し」や「間断通水」をしやすいするため、溝切りを必ず実施する。

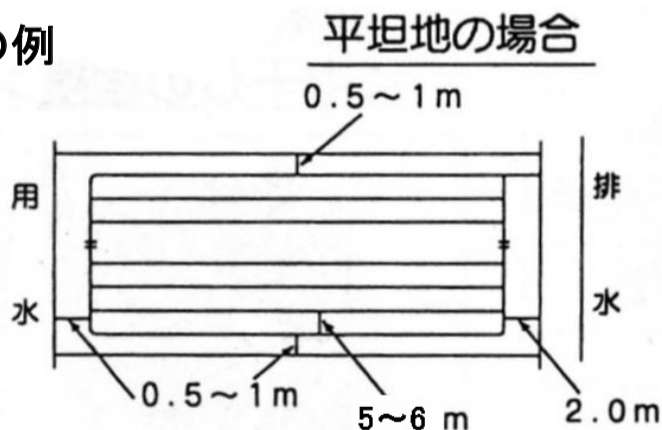
ガスの発生



天候に応じた水管理の実施



溝切りの例



※ガス抜きについて

- 有機物を施用した圃場や湿田では5月中旬以降、地温の上昇にともない有機物の分解が進み、ガスが発生しやすくなり、根腐れの原因となります。ガスが発生している圃場では、晴天時に田干しを実施し、ガス抜きをする必要があります。
- 特に、除草剤(特に中期剤)の散布前には必ずガス抜きを実施してください。

中干しは、田植え一ヶ月後を目安に開始しましょう！

くわしいことは、営農指導員にお尋ねください。

生産履歴とGAPを的確に記録しましょう！

補植苗の放置は葉いもちの発生源となりますので、早急に処分しましょう！